

道を究める人は、今よりも前を目指して努力を続けることのできる人、一步一步着実に、歩みを進めることのできる人なのでしょう。面白くて仕方のないものとの出会いは、小学校時代の今、身近にあるかもしれません。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「前を目指して」

みなさんは、将棋の羽生 善治（はぶ よしはる）さんを知っていますか。先日、初めて永世7冠を成し遂げた人です。永世のタイトルを2つ以上もつ人は、羽生さんの他に3人しかいません。

羽生さんが初めて将棋を知ったのは小学校1年生の時、友達の家で教わったそうです。小学2年で将棋クラブに入った時は、普通なら8級から始めるのに15級からスタートしました。人より低い級からのスタートにくじけることなく、少しずつ級が上がるのが楽しみだったそうです。そのうち、どんなにやっても勝つためのコツがわからない将棋が面白くてたまらなくなりました。6年生で小学生名人、15歳で史上3人目の中学生棋士、永世6冠を獲得してから9年、これが最後のチャンスかもしれないと思って勝負に臨んだそうです。

今年、2つのタイトルを若手に奪われましたが、羽生さんの強みは負けを引きずらない気持ちの強さだそうです。記者会見では、こんな言葉を話しています。「次はないかもしれない、挑戦者らしく積極的に前に進もうと思った。」「勉強し、最新の将棋を取り入れるのが必要不可欠。今後も、将棋を指す中で何かしら発見や進歩を感じていきたいと思う。」「将棋の本質はまだまだ何も分かっていない」

今の自分に満足することなく、さらに前を目指して努力するからこそ、誰にも真似できない大記録を作ることができたのでしょう。皆さんも、いろいろなことにチャレンジして、面白くて仕方のないもの、熱中できるものを探してみてください。

- 1 将棋のプロになることはすごくて1年間に3～4人ぐらいなのに、その夢に向かって勇気を出して戦うことがすごいなと思います（プロには期限がある）。だから、ぼくも勇気を出して、何事にも立ち向かう選手になります。
- 2 羽生さんはすごいと思います。私は習い事でできないことは、すぐあきらめてしまいます。今後は羽生さんを見習って、できないことは習い事の先生に聞いたりするよう努力し、あきらめないようにしたいと思います。
- 3 羽生さんは、最初8級で始めるはずが15級で始めたように将棋が下手だったそうです。でも、負けを引きずらずあきらめずにしていったから、上手くなったんだと思います。ぼくも、勉強やスポーツで生かしたいと思います。
- 4 タイトルをたくさんとっているのに、まだ勉強が足りないと思えるなんて、すごいと思った。
- 5 勝負で負けても、引きずらないという部分が一番心に残った。どんどん前に進むという気持ちをもって、すごいなと思った。羽生棋士のように、どんどん前に進むという気持ちを大事にしたい。
- 6 他のみんなより違うレベルから始めたけど、あきらめず毎日毎日努力すれば成果は出るということが分かって、自分も簡単にあきらめないような人になりたいと思いました。
- 7 私も将棋は大好きです。でも、そこまで強くありません。だから、羽生さんみたいにあきらめず努力して、いろいろな人に勝ちたいです。そんな羽生さんの努力は、誰にでもまねできるものではないと思います。
- 8 羽生さんは最初から強い人で、心の強い人だと思っていました。でも、普通なら8級で始めるクラブも15級から始めたと聞き、びっくりしました。それでも少しずつ級を上げて行って、すごいなと思いました。
- 9 小1から始めたことが、今の才能になっている。それは、すごいことだと思った。
- 10 羽生さんのすごさが分かった。あきらめなければ、できると思った。だからぼくも、いまやっていることをあきらめないようにする。
- 11 羽生さんはいつも勝っていて子供のころから強いと思っていたけど、子供の頃は弱くて負けていたのに、負けを引きずらずに練習し続けて、永世7冠を達成できてすごいと思った。
- 12 羽生さんは記者会見の時に、将棋は奥が深いから挑戦していきたいと言っていました。私も自分の好きなことに挑戦していきたいです。
- 13 ぼくは、パルクールというスポーツをやっています。「こわくないの。」などと聞かれますが、楽しんで一生懸命、将来のパルクール世界大会の日本人で初めての世界一をとるために頑張っています。羽生さんを見習って、頑張ろうと思います。